

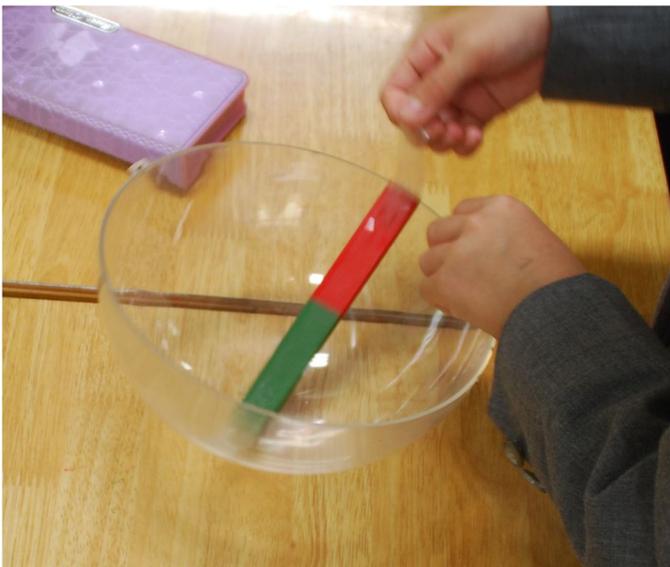
「3年・方位の探究(9)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

透明半球を使った「地磁気地球儀」は、子どもたちの手にかかって、どんどん進化していった。球の中心に棒磁石を浮かせて静止させる方法も、さまざま試された。その中でも、セロハンテープを使った方法が、一番簡単で、丈夫なことがわかった。



まず、長く切ったセロハンテープを、棒磁石の両面に貼る。表面側は、大幅にはみ出させるが、裏面側のテープは、棒磁石より少し長い程度が良い。



そのままの状態、透明半球の縁に貼り付ける。その時、断面円の中心に、棒磁石の中心もくるようにすること、たるまないように、ピンと張ることが大切である。ここが難しく、何度もやり直していた。



電磁石を設置したら、もう一つの透明半球をかぶせて、接合面を適当な長さのセロハンテープでつなぎ合わせる。最後に、棒磁石と直交する方向に、赤いテープ(写真では橙)のビニールテープを巻く。これは赤道を意味している。うまく作ると、上写真のように、本当に地球の地軸に棒磁石が浮いているように見える。床に落ちると割れるので、周囲を筆箱で囲んで、転がらないように工夫する班が多かった。(それでもいくつか落ちて割れた)



「日本はどのへんですか?」「アメリカはどのへんですか?」という質問が多かったので、社会科準備室から地球儀を9個借りてきて、各班に貸し出した。このあとが実にアクティブで面白かった。(つづく)